



2015～16 年度
国際ロータリー会長

K. R. ラビンドラン

Weekly Report Niigata



世界へのプレゼントになろう

2015～16 年度 国際ロータリーのテーマ



2015～16 年度
新潟ロータリークラブ会長

竹石 松次

新潟 RC1月第 1 例会 (2016.1.5) No.3116

- (1) 「君が代」 斉唱
ロータリーソング「奉仕の理想」 斉唱
- (2) 新年初例会を祝し 乾杯 竹石会長
- (3) ピアニスト 濱田 道子さんによるピアノ演奏
曲目 メンデルスゾーン春の歌、春の海、おさるのかごや、北国の春
- (4) 竹石 松次 会長挨拶

小林ハル

明治三十三年（1900）～平成十七年（2005）

盲目の旅芸人小林ハルは、三条市（元・南蒲原郡旭村三貫地）で、父・豊蔵、母・トメの四人の末っ子として誕生した。生後百日で白内障のため失明し、瞽女（ごぜ）として一生を貫き、百五歳の生涯を終えるが、その生き様は、波乱の人生であった。

目の病気に罹り、自律の道を模索していた最中、父が亡くなったため、母は、当時村々を巡業して歩いていた瞽女に注目、ハルの将来を託す決断をする。

「瞽女」とは、盲目の女性で、三味線を弾き、歌を歌い、一軒一軒、玄関先などで「門付け」をして、食糧や金銭を受け取る集団で、通常三味線、歌、手引きと言われる先導者の三人で一組となっている。その起源は、遠く平安時代末期から、室町時代にまでさかのぼる。

明治三十八年（1905）、ハルは、未だ五歳であった。親方の瞽女は、稽古をするにはあまりに幼いため芸の仕込みを二年間延ばすことにした。

この間、母親が行儀作法、浴衣の仕立て、針に糸を通すことを教えた。健常者でも難しい針の糸を通す修練は、畳の縁を縫う大きな針に糸を通す練習をさせ、やがて、実際の針で指導した。

六歳の女の子は、泣きながら手と針の感覚を会得し、針を使うことを憶えた。鬼となった母と懸命に親の仕草を憶える毎日が続き、漸く一人前の仕事が出来るようになった。

七歳になって、漸く本格的な修業が始まった。子供用の小さな三味線を購入して貰い、手取り足取り、文字通り親方の身体を使った訓練が続いた。

しかし、幼い娘の手は一週間もすると指先の皮がむけ、血が滲む等、棘の道であった。

傍で見ていた母は、

「指が痛くて三味線を弾けぬようでは、唄だって歌われぬ、そんな我慢が出来ぬなら、川に投げてくる。」

と、甘えを許さなかった。

瞽女の世界に生きるための厳しさを、痛切に感じた初修行であった。

遠くまで響く声が求められた瞽女唄に欠かせない『声』を作るため、寒稽古が日課となった。毎朝、五十嵐川の川縁で、寒風の中大きな声で習いたての、ゴゼ唄を吹雪の中、歌い続けた。

喉から血が出る程の修業は、朝晩、凡そ一か月間続く、この間稽古は、十四年間続けられ、瞽女として、その後九十年間衰えることがなかった驚異の発声法であった。

最初の旅は、八歳の秋であった。自分で着物を着て、手甲脚絆、草鞋を履き、手拭を頭に乘せ編み笠被り、杖を突いて、門付の出立である。

各人が所帯道具を風呂敷に包み、肩に背負って三人が縦に並んで歩く。先頭に行く瞽女は、時には弱視の女性が立つこともあるが、同じ境遇の三人の場合が多い。

口伝が仕来りの社会で、親方から弟子へと受け継がれた唄は、四～五百曲と多く、すべてが頭の中に組み込まれていた。

瞽女唄には、語り物と唄い物の二種類に分類される。前者は、節のある物語の詞に曲折を付けて語るもので、詞の文学的表現に重きが置かれ、楽器の伴奏による音楽的表現は従となる。祭文松坂（段物）と、これをくずした口説きがある。後者は、叙情性のある詞や句に曲節をつけて唄うもので、音楽的要素に重点が置かれる。長唄、端唄、門付唄、祝い唄がある。

明治四十一年（1908）、師匠と共に初めての門付に出発する。ハル八歳の旅立ちであった。

これを契機に、旅芸人としての生活が始まった。明治、大正、昭和と巡業が続けられたが、この間、年上の瞽女に叩かれたり、小遣を巻き上げられたり、怪我を負わせられたり、弟子に裏切られるなど、波乱の巡業生活を続ける日々が続いた。

盲目であるが故に通ら根柢ればならない苦労の連続であった。

昭和四十八年（1973）、高齢と社会の情勢が変化する中、瞽女としての生活が困難となり、老人ホームへの入居が決

定した。

丁度この年、新潟放送のテレビ取材が行われ、出湯温泉で小林ハルが演じる警女唄が収録された。この時の様子は、貴重な映像として保存されている。

昭和五十二年（1977）、新潟で唯一の盲人養護施設「胎内やすらぎの家」に入所し、安住の地を得ることとなった。

その後、文化庁より「記録作成の措置を講ずべき無形文化財の選択」の認定を受けた他、吉川英治文化賞、三条市名誉市民に選定された。

平成十一年（1999）小林ハルの長岡警女、杉本キクイの高田警女など、多くの警女を顕彰するため「警女文化を顕彰する会」が発足、元新潟放送社長の高澤正樹が会長となり、春さんの百寿を祝う会が盛大に開催された。

この時、事務局長の筆者は、舞台上でインタビューをしている。

「大勢の皆様にお祝いしていただきありがとうございます。胎内やすらぎの家に、入れて頂き楽しく暮らしています。」

そして、『出雲節・ミカン口説』をまるで、昨日まで門付けをしていたかのような朗々とした百歳の芸であった。

平成十二年（2000）、胎内市の「胎内やすらぎの家」の敷地に、警女顕彰碑が建立されたほか、その三年後には、写真集「警女・小林ハル～103歳の記録」が出版、DVD「小林ハル・渾身の熱唱百歳の熱唱」と続いた。

平成十七年、胎内やすらぎの家で、百五歳の生涯を終えた。

「苦しい時は修業、楽しい時はお祭り」永い人生で学んだ教訓は多くを語らず・・・。

(5) 米山奨学生 朴 治国さん挨拶・奨学金贈呈

(6) 新会員の紹介



(株)ニューメディア新潟センター
常務取締役、新潟センター長
河西 弘太郎君
ご紹介 田中堅一郎君
所属委員会 出席委員

ニューメディア（NCV）新潟センターの河西弘太郎と申します。この度は歴史と伝統がある新潟ロータリークラブへの入会をお認め頂きありがとうございました。

私は昭和35年3月2日生まれの長野県出身55歳です。子供も東京で働いていますので実家は空け、妻と二人で新潟を満喫しています。大学卒業後長野県の諏訪でケーブルテレビに従事し100%加入を達成した後50歳で北海道に渡り、苫小牧で経営の手伝いを3年、その後NCVに入り2年間の函館を経て現在に至っております。根っからのケーブルテレビマンで、地元の方々と

のコミュニケーションを第一に考えておりますので、ロータリークラブの活動を通じ、諸先輩方と知り合いになることを楽しみにしております。

趣味らしい趣味はありませんが、ゴルフは「下手の横好き」日本酒の飲み方は「好きこそ物の上手なれ」です。

若輩者ではございますが、ロータリークラブの一員として活動できるよう努力したいと思います。ご指導ご鞭撻を賜りたく宜しくお願い申し上げます。

(7) 100%出席バッチの贈呈

徳永 昭輝君 7年 松本 英明君 10年
石本隆太郎君 34年 小山 楯夫君 36年

(8) 誕生日お祝い贈呈（6名）

(9) 結婚記念日お祝いの紹介（2名）

(10) 委員会報告

玉親委員長 1月19日新年会ご案内
龍田社会奉仕委員 ロータリー保育園クリスマス訪問の報告。（11名訪問）

(11) 各種ご寄付の発表

ロータリー財団寄付発表(織戸 潔委員長)

織戸 潔 君

米山奨学会寄付発表(若杉副委員長)

若杉 武 君

青少年育成基金寄付発表(小林 悟委員長)

本間 彊 君 小林 悟君

(12) ニコニコボックス紹介（千田英継副委員長）

・山本泰仁君 「新潟の一番搾り」を本年6月に発売することになりました。昨年12/21新潟日報に記事広告を掲載させて頂きましたことにニコニコします。吉田幹事のお母様にも、商品づくりにご支援頂きましたことに感謝申し上げます。

・坂本 務君 昨年、12月に長女が嫁ぎました。大変うれしくもあり、少し寂しくもあり、複雑な父親の心境です。ただ、夫婦円満と自宅に近いのが、何よりです。

・石橋正利君 孫から「おじいちゃん大好き」と言われたことと、三男坊が弁護士として、市ヶ谷にある事務所で働き始めたことに感謝して。

・田中堅一郎君 新年早々、新会員の河西弘太郎さんをご紹介させていただきました。

・鈴木 滋弥君 会員の方から賀状を頂戴致しました。有難うございました。今年も宜しくお願い致します。

(13) 幹事報告 (吉田 和弘幹事)

- ・理事会報告
会計基準検討委員会案の発表、入退会手続きについての確認
- ・例会終了後、4階「雪の間」に於いて新会員オリエンテーションを開催致します。

(14) 1月 5日例会の出席率 78.72%

会員数99名 (出席免除会員 9名)

出席者74名 (出席免除会員4名を含む)

(2週間前メーク後 86.46%)

1月12日の例会予定

会員スピーチ「白鳥のふるさと」

(株)BSNウェーブ 代表取締役社長 近藤 正典 君

新潟ロータリークラブホームページアドレス

<http://www.niigatarc.jp/>

1月5日 理事会報告 出席者10名

- 1 2/23 旧新潟市内7RC合同例会について
2月23日に7RCの合同例会があり、当クラブは例会時に参加者から会費(個人負担6,000円)を徴収する旨、幹事より説明を行った。
- 2 会計基準検討委員会の報告
竹石会長より新潟RC会計基準案について、親睦委員会が担当する例会後の懇親事業は収支に関する決算書を作成するなど、変更点が説明され、原案の通り承認された。
- 3 入会申込書書式について
樋熊副会長より入退会の手続きに関する細則の見直しについて説明があり、特に変更は必要はないものの、入会にあたっては推薦者が十分にRCの説明を行うことが確認された。
- 4 1月～6月までの主な行事
浪江町訪問写真展
3月7日(月)
浪江町ロータリークラブ代表を招いて懇親会を予定
3月8日(火)～13日(日)
イタリア画廊 11:00 開場式を予定
4月5日(火) 前橋観桜会
4月12日(火) 観桜例会 等
- 5 1月のプログラム
1月5日 卓話、会員スピーチなし
1月12日 会員スピーチ
BSNウェーブ
代表取締役社長 近藤正典君
1月19日 新年家族会
6時開会 行形亭
1月26日 卓話「地域デビュー ～好きなまちに、あなたの「手」を加えてステキなまちへ～」
認定NPO法人
新潟NPO協会
理事・事務局長
井上基之(もとゆき)氏
- 6 その他
2017年の日程について
2017年2月18日(土) PETS
5月14日(土) 地区研修協議会
10月28日(土)・29日(日)
地区大会
4～6は原案通り承認された。